# ２．鳥　　類

## １　石川県の鳥類相

石川県は日本のほぼ中央に位置し、日本海に突き出した能登半島と長い海岸線、白山の高山帯、平野部の河川湖沼など多様な環境を有している。そのため、県内ではそれら環境に生息する様々な鳥類が観察、記録されている。また能登半島沖に位置する舳倉島は大陸間を移動する渡り鳥の中継地となっており、国内では稀にしか観察されない大陸系の種が数多く記録されている。1987年から2007年までの20年の間、毎年約300種以上が記録され、これまで本県で記録された鳥種は430種（絶滅種2種と日本鳥類目録未掲載種18種を含む）にのぼり、年間記録種数、確認総種数共に全国でも有数の県の１つとなっている。

県内で記録された種（絶滅種を除く）を生活史によって分類すると、その構成は留鳥66種（15%）、夏鳥56種（13%）、冬鳥95種（23%）、旅鳥94種（22%）、迷鳥93種（27%）となる。外洋に面して長い海岸線がある県では、概して渡り鳥や海洋性の種などの記録が多くなるが、本県の記録もこの傾向と一致している。また冬鳥の比率が高いのは大陸から越冬のために飛来する種が多いこと、旅鳥、迷鳥の比率が高いのは前述の舳倉島などで記録される渡り鳥の種が多いことに起因している。

このように、冬鳥や旅鳥、迷鳥を含む渡り鳥に該当する種（特に大陸系の種を含む小鳥類）が記録種の多くを占めていることが、石川県の鳥類相を最も特徴づける点であると考えられる。

## ２　種の選定基準

(1) 第一次選定について

本県での記録種430種のうち、原則として過去10年間で5回以上観察記録のある種を中心に第一次選定を行い、県版RDB選定の対象として307種を選出した。これらは、県内で定期的に繁殖、越冬、通過する種であり、不定期に渡来するいわゆる迷鳥（県内での位置付け）は国のRDB指定種であっても選定対象から除外した。ただし、国のRDB指定種で4回以上の記録のある種は、その重要性を考慮し選定対象とした。また観察の機会の少ない海洋性や夜行性の種、また著しく隠蔽性が高く観察が困難な種でも、定期的な生息が予測される種については2回以下の記録でも選定対象とした。なお、野外の観察では亜種の同定は困難である場合が多いため、選定は種のレベルにとどめた。

(2) 第二次選定について

選定対象とした307種について、下記の基準で第二次選定を行ない、66種に絞り込むとともに、過去に生息していた記録があるが、現在、生息が確認されていない2種を加え、RDB選定種を68種とした。前回の「いしかわレッドデータブック〈動物編〉2000」の選定種61種より7種増えたことになる。ちなみに新たに選定された種は9種、除外された種は2種だった。

（選定基準）

a. 国のRDB指定種であるもの。
b. 過去20年間（情報不足のものは10年間）で生息数または、観察例が著しく減少しているもの、及びその記録の傾向から今後減少が予測されるもの。
c. 過去20年間（情報不足のものは10年間）で生息地が著しく減少したもの、及びその記録の傾向から今後減少が予測されるもの。
d. 生物地理学的にみて重要な個体群、及び県内で局地的な分布をする個体群及びその生息地。
e. 生物地理学的にみて希少種と予測されるが観察例等が少なく判定するだけの情報がないもの。

## 3　鳥類選定種とその概要

選定された68種を、それぞれのカテゴリーに評価分類した。評価分類にあたっては種の繁殖（域）、越冬（域）、休息中継（域）の状況を評価の基本とし、国レベル、世界レベルの生息状況も考慮して検討した。その結果、「絶滅」2種、「絶滅危惧Ⅰ類」16種、「絶滅危惧Ⅱ類」17種、「準絶滅危惧」25種、「情報不足」5種、「地域個体群」3種となった（表1）。

表1　鳥類選定種一覧

| |
|---|
| 絶滅　　2種<br>トキ、ライチョウ |
| 絶滅危惧Ⅰ類　　16種<br>ヒメクロウミツバメ、サンカノゴイ、ヨシゴイ、ミゾゴイ、クロツラヘラサギ、コクガン、クマタカ、イヌワシ、チュウヒ、ヒクイナ、ヘラシギ、コアジサシ、カンムリウミスズメ、イワヒバリ、チゴモズ、アカモズ |
| 絶滅危惧Ⅱ類　　17種<br>マガン、カリガネ、ヒシクイ、トモエガモ、オジロワシ、サシバ、オオタカ、ハヤブサ、イカルチドリ、シロチドリ、タマシギ、ホウロクシギ、アオバズク、ヨタカ、アカショウビン、ブッポウソウ、コジュリン |
| 準絶滅危惧種　　25種<br>カンムリカイツブリ、ササゴイ、チュウサギ、クロサギ、オシドリ、ヨシガモ、シノリガモ、ホオジロガモ、ビロードキンクロ、ウミアイサ、カワアイサ、ミサゴ、ハチクマ、ハイタカ、ノスリ、ヤマドリ、イソシギ、ヤマシギ、ウミスズメ、コノハズク、サンショウクイ、サンコウチョウ、コシアカツバメ、セッカ、ノジコ |
| 情報不足　　5種<br>オオジシギ、マダラウミスズメ、オオコノハズク、ハリオアマツバメ、キバシリ |
| 地域個体群　　3種<br>七ツ島のオオミズナギドリ繁殖個体群、七ツ島のウミウ繁殖個体群、ミユビシギ越冬群 |

「絶滅」は前回と変わらずトキ、ライチョウの2種だった。

「絶滅危惧Ⅰ類」は16種、前回より3種増加した。このうちヒメクロウミツバメは前回の選定以降も新たな生息情報はなく、ほぼ絶滅状態であると考えられる。ただし調査漏れも考えられるため、前回に引き続き「絶滅」に判定しなかった。今回新たに選定されたのはミゾゴイ、クロツラヘラサギとヘラシギ、アカモズの4種である。クロツラヘラサギとヘラシギは国際的な希少鳥類であり、県内の渡来数もごく少ない。今回はこれらを考慮してランク付けを行った。またアカモズは最近の減少が著しいことから、前回の準絶滅危惧種からランクアップした。

「絶滅危惧Ⅱ類」は17種、前回より1種減少し入れ替わりがあった。新たに選定されたカリガネは、近年、加賀市の片野鴨池で定期的な渡来するようになり、全国的にも渡来数の少ない国RDB種でもあることから選定された。同じくコジュリンは国RDB種であり、新たに河北潟干拓地で繁殖が確認されたため選定された。

「準絶滅危惧」は25種、前回より2種増加した他、いくつか入れ替わりがあった。新たに選定されたのは県内何箇所かで繁殖が確認されたカンムリカイツブリ、ノスリ。近年、観察例が少なく減少が予想されるビロードキンクロ、コシアカツバメ、ヤマドリなどである。また、ウミアイサ、サンショウクイ、サンコウチョウ、セッカなど、前回「絶滅危惧Ⅱ類」にランクされていたいくつかの種類のランクを下げた。これらは新しく得られた生息情報に加えて、国レベルの生息分布域を考慮してより客観的に判断した結果である。

「情報不足」は3種増えて5種。客観的に判断しうる情報の少ないものをこれにあてた。このうちオオジシギ、ハリオアマツバメは新たな繁殖の可能性に関しての選定となった。マダラウミスズメについては、もともと観察例がごく少なく、温暖化による越冬域の北上なのか、生息を脅かす要因があったのか、判断しうる情報がなかったためである。

「地域個体群」としては3種。前回と同じく、オオミズナギドリ及びウミウは七ツ島の繁殖個体群を、ミユビシギはかほく市から能美市海岸にかけての越冬個体群を選定している。

この他、オオハクチョウとコチドリの2種を石川県RDBリストから除外した。オオハクチョウは県内では少ないものの、東日本では個体数も多く普通種であること、コチドリはその後の情報収集で県内では生息地、個体数とも安定しており、絶滅の恐れはないと判断されたものである（以上表2参照）。

なお種の解説については、種の配列及び学名、和名は「日本鳥類目録第6版」（日本鳥学会 2000）に従い、原則的に亜種名は省略したが、亜種表示が必要な場合は種小名の後につけ、和名表示もつけた。

表2　「いしかわレッドデータブック〈動物編〉2000」からランクが変更された種

| 種　　名 | 旧ランク→新ランク | 種　　名 | 旧ランク→新ランク |
|---|---|---|---|
| ミゾゴイ | Ⅱ類 → Ⅰ類 | ノスリ | 不足 → 準 |
| クロツラヘラサギ | Ⅱ類 → Ⅰ類 | ヤマドリ | なし → 準 |
| ヘラシギ | なし → Ⅰ類 | コシアカツバメ | なし → 準 |
| アカモズ | 準 → Ⅰ類 | セッカ | Ⅱ類 → 準 |
| カリガネ | なし → Ⅱ類 | | |
| トモエガモ | 準 → Ⅱ類 | マダラウミスズメ | なし → 不足 |
| オオタカ | Ⅰ類 → Ⅱ類 | オオコノハズク | 準 → 不足 |
| シロチドリ | 準 → Ⅱ類 | ハリオアマツバメ | なし → 不足 |
| コジュリン | なし → Ⅱ類 | キバシリ | Ⅱ類 → 不足 |
| カンムリカイツブリ | なし → 準 | | |
| ビロードキンクロ | なし → 準 | オオハクチョウ | 準 → 除外 |
| ウミアイサ | Ⅱ類 → 準 | コチドリ | Ⅱ類 → 除外 |

## 4　いしかわレッドデータブックに選定されなかった環境庁のレッドリスト選定種

国のRDB指定種であって県のRDB種に選定されなかったものが下記のとおり38種ある（表3）。これはコアホウドリやシロハラミズナギドリなどの迷鳥で（備考欄に迷鳥と表示）県内への渡来が不定期なため選定対象種から除外したもの。ヒメウやアカアシシギなどのように国の指定が「繁殖（域）」を基準に指定しているもので、県内での繁殖がないため（備考欄に繁殖無と表示）選定しなかったもの。ある程度の渡来は見られるものの定期的な渡来は見られず、時期、期間等が不安定なため（備考欄に迷鳥的と表示）選定しなかったものがある。例えばカラシラサギは、1986年に旧田鶴浜町（現七尾市）のサギコロニーで営巣が見られたが、繁殖は成功しなかった。その後も輪島市舳倉島ではよく見られ、今後、繁殖の可能性も期待されるが、今回は定期的な繁殖、通過ではないと判断した。

これらの種類は現時点では選定基準に当てはまらず選定されなかったが、前回この表にあげられていたヘラシギやコジュリンが今回のRDBに選定されたように、鳥類の生息状況は変化していくものなので、今後も動向に注意を払うべき種類である。

表3　いしかわレッドデータブックに選定されなかった環境省のレッドリスト選定種

| 種　　名 | 学　　名 | 国の区分 | 備　　考 |
|---|---|---|---|
| コアホウドリ | *Diomedea immutabilis* | EN | 迷鳥 |
| シロハラミズナギドリ | *Pterodroma hypoleuca* | DD | 迷鳥 |
| クロコシジロウミツバメ | *Oceanodroma castro* | CR | 迷鳥 |
| クロウミツバメ | *Oceanodroma matsudairae* | EN | 迷鳥 |
| ヒメウ | *Phalacrocorax pelagicus* | EN | 繁殖無 |
| チシマウガラス | *Phalacrocorax urile* | CR | 迷鳥 |
| オオヨシゴイ | *Ixobrychus eurhythmus* | EN | 迷鳥的 |
| カラシラサギ | *Egretta eulophotes* | NT | 迷鳥的 |
| コウノトリ | *Ciconia boyciana* | CR | 迷鳥 |
| ヘラサギ | *Platalea leucorodia* | DD | 迷鳥 |
| クロトキ | *hreskiornis melanoce phalus* | DD | 迷鳥 |
| シジュウカラガン | *Branta canadensis* | CR | 迷鳥 |
| ハクガン | *Anser caerulescens* | DD | 迷鳥的 |
| サカツラガン | *Anser cygnoides* | DD | 迷鳥 |
| アカツクシガモ | *Tadorna ferruginea* | DD | 迷鳥的 |
| ツクシガモ | *Tadorna tadorna* | EN | 迷鳥的 |
| アカハジロ | *Aythya baeri* | DD | 迷鳥 |
| コウライアイサ | *Mergus squamatus* | DD | 迷鳥 |
| オオワシ | *Haliaeetus pelagicus* | VU | 迷鳥的 |
| ウズラ | *Coturnix japonica* | NT | 野生種は迷鳥的 |
| クロヅル | *Grus grus* | DD | 迷鳥 |
| タンチョウ | *Grus japonensis* | VU | 迷鳥 |
| ナベヅル | *Grus monacha* | VU | 迷鳥 |
| マナヅル | *Grus vipio* | VU | 迷鳥 |
| チシマシギ | *Calidris ptilocnemis* | DD | 迷鳥 |
| アカアシシギ | *Tringa totanus* | VU | 繁殖無 |
| カラフトアオアシシギ | *Tringa guttifer* | CR | 迷鳥 |
| コシャクシギ | *Numenius minutus* | EN | 迷鳥 |
| セイタカシギ | *Himantopus himantopus* | VU | 繁殖無 |
| ツバメチドリ | *Himantopus himantopus* | VU | 迷鳥的 |
| ズグロカモメ | *Larus saundersi* | VU | 迷鳥 |
| オオアジサシ | *Thalasseus bergii* | VU | 迷鳥 |
| ウミガラス | *Uria aalge* | CR | 迷鳥 |
| ケイマフリ | *Cepphus carbo* | VU | 迷鳥 |
| エトピリカ | *Lunda cirrhata* | CR | 迷鳥 |
| カラスバト | *Columba janthina* | NT | 迷鳥的 |
| ヤイロチョウ | *Pitta brachyura* | EN | 迷鳥 |
| シマアオジ | *Emberiza aureola* | CR | 繁殖無 |

## 謝辞

本章をまとめるにあたって、文章や写真提供、情報提供、選定のための意見交換などについて、多くの方々のご協力をいただいたことに対し、感謝を申し上げます。

（竹田　伸一）

## 新旧対応表

| | | 前回 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 絶滅<br>2 | 絶滅危惧Ⅰ類<br>13 | 絶滅危惧Ⅱ類<br>18 | 準絶滅危惧<br>23 | 情報不足<br>2 | 地域個体群<br>3 | カテゴリー外<br>9 |
| 今回 | 絶滅<br>2 | トキ<br>ライチョウ | | | | | | |
| | 絶滅危惧Ⅰ類<br>16 | | ヒメクロウミツバメ<br>サンカノゴイ<br>ヨシゴイ<br>コクガン<br>クマタカ<br>イヌワシ<br>チュウヒ<br>ヒクイナ<br>コアジサシ<br>カンムリウミスズメ<br>イワヒバリ<br>チゴモズ | ミゾゴイ<br>クロツラヘラサギ | アカモズ | | | ヘラシギ |
| | 絶滅危惧Ⅱ類<br>17 | | オオタカ | マガン<br>ヒシクイ<br>オジロワシ<br>サシバ<br>ハヤブサ<br>イカルチドリ<br>タマシギ<br>ホウロクシギ<br>アオバズク<br>ヨタカ<br>アカショウビン<br>ブッポウソウ | トモエガモ<br>シロチドリ | | | カリガネ<br>コジュリン |
| | 準絶滅危惧<br>25 | | | ウミアイサ<br>セッカ | ササゴイ<br>チュウサギ<br>クロサギ<br>オシドリ<br>ヨシガモ<br>シノリガモ<br>ホオジロガモ<br>カワアイサ<br>ミサゴ<br>ハチクマ<br>ハイタカ<br>イソシギ<br>ヤマシギ<br>ウミスズメ<br>コノハズク<br>サンショウクイ<br>サンコウチョウ<br>ノジコ | ノスリ | | カンムリカイツブリ<br>ビロードキンクロ<br>ヤマドリ<br>コシアカツバメ |
| | 情報不足<br>5 | | | キバシリ | オオコノハズク | オオジシギ | | マダラウミスズメ<br>ハリオアマツバメ |
| 68 | 地域個体群<br>3 | | | | | | オオミズナギドリ<br>ウミウ<br>ミユビシギ | |
| | カテゴリー外<br>2 | | | コチドリ | オオハクチョウ | | | |